

## エイビーロード AB-ROAD 『海外渡航構造調査2010』

2009年の海外渡航は、ビジネス大幅減もレジャーは前年超え。  
特に女性のレジャー渡航数増加が顕著。20代では男女差が拡大。  
休暇分散化は旅行喚起に有効。羽田空港国際化は京浜在住者の期待大。

エイビーロード・リサーチ・センター（株式会社リクルート・旅行カンパニー内、センター長・稲垣昌宏）は、「成田・羽田空港の拡張」「航空行政の見直し」「観光立国政策」など旅行需給の転換点ともいえる2010年の1月～2月に、全国20～60代の男女を対象に「海外渡航構造調査2010」を実施しました。この調査は海外渡航市場の構造を把握し、ヘビー、ライト、海外旅行未経験者などの特徴を整理し、今後の社会情勢の変化や各種施策・政策の効果を予測することを目的としています。ここに結果をご報告いたします。

### - 結果の要約 -

#### ■海外渡航市場の構造(2007～2009年)

…P3～5

＜海外渡航のビジネス・レジャー比率推計＞

- ◆2008～2009年は景気後退などの影響か、ビジネス渡航が減少。一方でレジャー渡航は前年比では増加。特に女性のレジャー渡航は円高・燃油サーチャージ値下げなどの影響か、全世代で回復基調。
- ◆20代のレジャー渡航は、男女差が拡大。20代女性の2009年旅行回数は2007年比でも増加。  
＜海外旅行アクティブ度＞
- ◆海外旅行のアクティブ度が上がるタイミングは20代男女、60代男性、50・60代女性が多い。逆にアクティブ度が下がるタイミングは30代女性と60代女性が目立つ。

#### ■今後の社会情勢や政策と旅行喚起度

…P6～7

＜社会情勢、政策による海外旅行意向の変化＞

- ◆ライト・休眠・海外未経験者に最も効果がありそうなのは、「海外旅行が高くない時期に休みが取れること」。休暇の分散や有給休暇取得促進は需要喚起につながりそう。
- ◆「羽田空港の国際化」なら首都圏、特に京浜方面では3割以上が“旅行回数を増やしたい”
- ◆出国ハブ空港から比較的遠い北海道、中四国・九州では「最寄りの空港から行ける路線が増える」ニーズが高い。

#### (参考)海外旅行ヘビー・ライト・休眠・未経験者の違い

…P8

＜これまでの海外旅行経験＞

- ◆ライト・休眠はヘビーに比べ、最初の海外旅行が「新婚旅行」の割合が高い。
- ◆ヘビーは「旅行先で感動した経験あり」「人が休む時期をはずして旅行できる」「家族や周囲の人がよく海外旅行に行っている」など、動機付けと物理的条件と周囲のムードの3要素が揃うことでヘビー化していると考えられそう。

【本件に関するお問い合わせ先】

[https://www.recruit.jp/support/inquiry\\_press.html](https://www.recruit.jp/support/inquiry_press.html)

## 調査概要と回答者プロフィール

### 《調査概要》

- 調査名 : 海外渡航構造調査2010
- 調査目的 : 海外渡航市場の構造を把握し、今後の社会情勢の変化や各種施策・政策の効果を予測することを目的とする。
- 調査対象 : (株) インテージのインテージ・ネットモニター
- 調査方法 : インターネット調査

### 《STEP1》

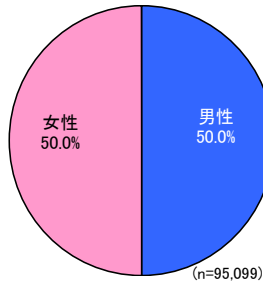
- 調査期間 : 2010年1月13日(水)～1月19日(火)
- 対象数 : 280,887人、調査回収数 : 96,557人(回収率 34.4%)、調査集計数 : 95,099人

今回の調査結果を人口推計(総務省統計局・2009年1月推計人口)にあわせて集計(ウエイトバック集計)を行いました。  
ウエイトバック値

男性					女性				
20代	30代	40代	50代	60代	20代	30代	40代	50代	60代
0.92974	0.97136	0.93139	0.97247	0.89321	0.91089	0.96018	0.93340	0.97379	2.06461

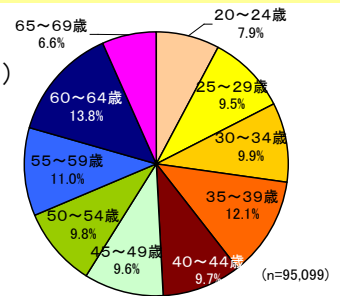
#### ■性別

(全体/単一回答)



#### ■年齢

(全体/単一回答)



### 《STEP2》

- 調査期間 : 2010年2月9日(火)～2月12日(金)
- 対象数 : 1,848人、調査回収数 : 1,417人(回収率 76.7%)、調査集計数 : 1,392人

STEP1調査結果をもとに、海外旅行(レジャーのみ)経験有無、および頻度から「海外旅行アクティブ度」を下記のよ  
うに定義

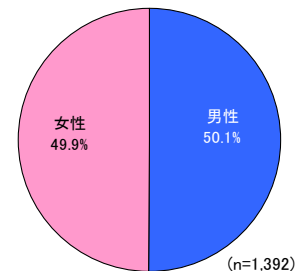
- ヘビー・・・該当の3年間に毎年海外旅行に行った
- ライト・・・該当の3年間に毎年ではないが海外旅行に行った
- 休眠・・・該当の3年間は海外旅行に行っていないが、それ以前には海外旅行に行ったことがある
- 未経験・・・今までに海外旅行に行ったことがない

※2004年～2006年の「海外旅行アクティブ度」と、2007年～2009年の「海外旅行アクティブ度」の移動状況を確認し、STEP2調査は下記12セルで割付を行った。( )内は有効サンプル数。

		2007年～2009年			
		ヘビー	ライト	休眠	未経験
2004年 ↓ 2006年	ヘビー	ヘビー →ヘビー 154(114)	ヘビー →ライト 154(126)	ヘビー →休眠 154(124)	
	ライト	ライト →ヘビー 154(113)	ライト →ライト 154(112)	ライト →休眠 154(116)	
	休眠	休眠 →ヘビー 154(115)	休眠 →ライト 154(115)	休眠 →休眠 154(117)	
	未経験	未経験 →ヘビー 154(114)	未経験 →ライト 154(108)		未経験 →未経験 154(118)

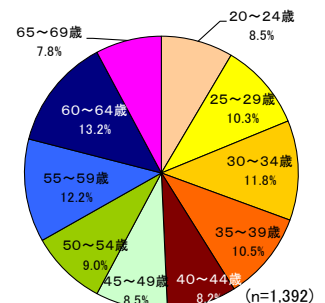
#### ■性別

(STEP2全体  
/単一回答)



#### ■年齢

(STEP2全体  
/単一回答)



### ■ビジネス渡航・レジャー渡航シェア(男女20～60代・回数ベース)

- 男性20代では、2年連続してレジャー渡航シェアがダウン(①)、女性20代・50代では2年連続してレジャー渡航シェアがアップ(②)。

### ■ビジネス渡航数・レジャー渡航数(男女20～60代・回数ベース・推計)

- 2009年の海外渡航は、ビジネス渡航は大幅減(③)、レジャー渡航は前年を上回る(④)。  
 ・2008年～2009年は男性30～50代のビジネス渡航が前年比で2割以上減っている(⑤)ものの、女性のレジャー渡航は全世代で回復(⑥)。  
 ・20代のレジャー渡航は、男女差が拡大傾向(⑦⑧)にあるが、女性20代の2009年渡航数は2007年比でも増加しており(⑧)、復調の兆し。

### ■ビジネス・レジャー渡航のシェア推移(2007年～2009年)

STEP1調査で回答された各年の海外渡航におけるビジネス・レジャーのシェアを算出(回数ベース)

	2007年		2008年		2009年	
	ビジネス渡航 (%)	レジャー渡航 (%)	ビジネス渡航 (%)	レジャー渡航 (%)	ビジネス渡航 (%)	レジャー渡航 (%)
① 男性20代 (n=2254)	18.3	81.7	20.5	79.5	22.9	77.1
男性30代 (n=4229)	42.4	57.6	46.4	53.6	43.3	56.7
男性40代 (n=4121)	50.6	49.4	51.0	49.0	46.7	53.3
男性50代 (n=4851)	46.8	53.2	45.9	54.1	39.5	60.5
男性60代 (n=5725)	32.4	67.6	29.1	70.9	23.1	76.9
② 女性20代 (n=2997)	12.9	87.1	12.7	87.3	10.6	89.4
女性30代 (n=3168)	10.1	89.9	10.6	89.4	8.7	91.3
女性40代 (n=2449)	13.4	86.6	13.3	86.7	13.4	86.6
② 女性50代 (n=3659)	6.7	93.3	6.2	93.8	5.1	94.9
女性60代 (n=2659)	8.1	93.9	4.0	96.0	4.1	95.9

### ■ビジネス渡航数・レジャー渡航数の推計

法務省発表の各年の性・年代別日本人出国者延べ人数(※1)をSTEP1調査で回答された、各年の性・年代別のビジネス・レジャー渡航シェアで按分して各年のビジネス渡航数、レジャー渡航数を推計した。(回数ベース)

矢印は±5%以上の増減を示す(延べ:万人)

	ビジネス渡航数		
	2007年	2008年	2009年
全体	423.2	396.3	319.9
男性計	358.2	338.1	266.0
男性20代	20.1	20.8	21.7
男性30代	89.5	89.5	70.4
男性40代	113.4	108.2	83.3
男性50代	93.6	83.3	61.0
男性60代	41.6	36.2	29.6
女性計	65.0	58.2	53.8
女性20代	22.3	20.4	18.3
女性30代	15.8	15.4	12.9
女性40代	13.1	12.4	13.1
女性50代	7.9	6.4	5.4
女性60代	6.0	3.6	4.1

矢印は±5%以上の増減を示す(延べ:万人)

	レジャー渡航数		
	2007年	2008年	2009年
全体	1,090.9	1,007.9	1,023.9
男性計	515.5	475.2	452.0
男性20代	89.9	81.0	73.0
男性30代	121.5	103.6	92.1
男性40代	110.8	104.1	95.1
男性50代	106.6	98.4	93.3
男性60代	86.7	88.1	98.5
女性計	575.4	532.7	571.9
女性20代	150.0	139.6	155.0
女性30代	140.2	129.1	134.7
女性40代	84.3	80.9	84.3
女性50代	109.4	96.6	100.4
女性60代	91.4	86.5	97.4

### ■参考1 法務省発表の各年の性・年代別日本人出国者延べ人数

矢印は±5%以上の増減を示す(延べ:人)

	2007年	2008年	2009年
	全体	15,140,790	14,041,658
男性計	8,737,480	8,132,458	7,180,320
男性20代	1,100,479	1,018,098	947,499
男性30代	2,109,582	1,931,020	1,624,906
男性40代	2,241,989	2,123,522	1,784,106
男性50代	2,002,178	1,817,242	1,542,489
男性60代	1,283,252	1,242,576	1,281,320
女性計	6,403,310	5,909,200	6,257,531
女性20代	1,723,300	1,600,166	1,733,493
女性30代	1,559,916	1,445,090	1,476,168
女性40代	973,641	932,830	974,015
女性50代	1,172,737	1,030,295	1,058,042
女性60代	973,716	900,819	1,015,813

※1:2009年は、1月～10月までの出国者数より推計

### ■参考2 2007年～2009年のビジネス・レジャー海外渡航に影響を与えたとされる主な環境要因

- 2008年・・・原油高騰による燃油サーチャージの高額化(マイナス要因)  
 2009年・・・円高、燃油サーチャージ下落、シルバーウィーク(プラス要因)、  
 リーマンショック、新型インフルエンザ流行(マイナス要因)

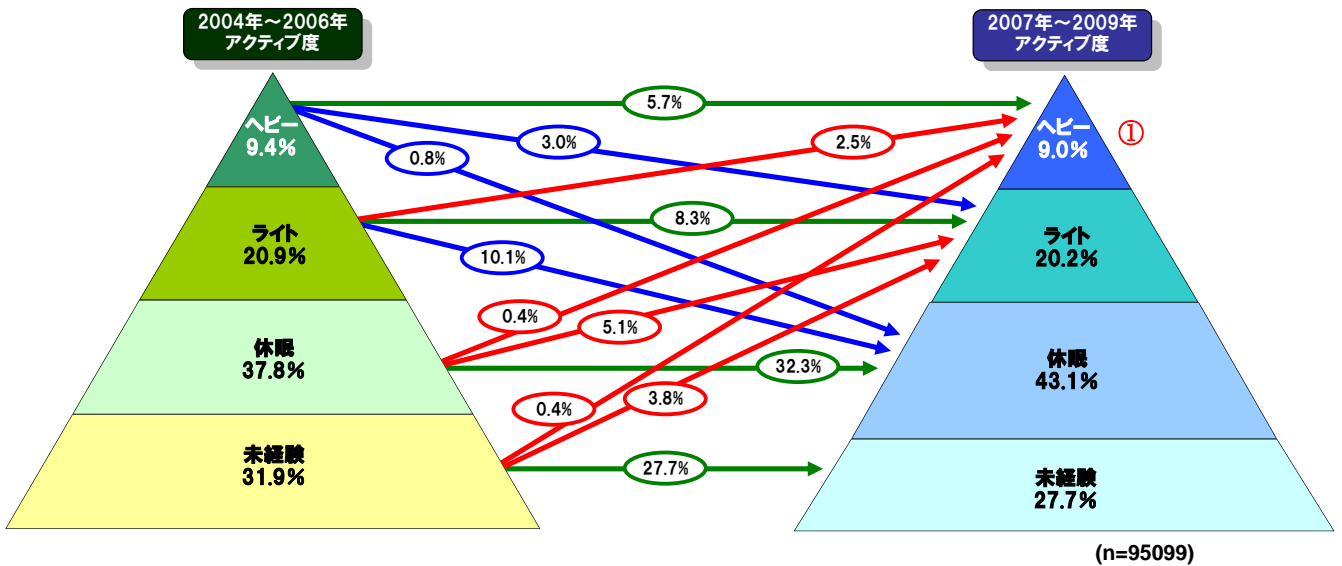
## ■海外旅行(レジャー目的)のアクティブ度と移動状況

- ・ヘビー(2007年～2009年の3年間に毎年海外旅行に行った)は全体の9.0%(①)。
- ・アクティブ度の変化をマーケットに影響力のあるセグメントで見ると、未経験→ライトになるタイミングは男女20代が多く(②)、ライト→ヘビーになるタイミングは男性60代、女性50・60代が多い(③)。
- ・就職、定年や子育ての終了などのライフイベントのタイミングと密接なかかわりがありそう。
- ・ヘビー→ライトへの離脱は女性30代と女性60代(④)が、ライト→休眠では女性30代(⑤)が目立つ。

## ■海外旅行(レジャー目的)アクティブ度の変化

(2004年～2006年の3カ年と2007年～2009年の3カ年を比較、全体)

※ヘビー・・・該当の3年間に毎年海外旅行に行った  
 ライト・・・該当の3年間に毎年ではないが海外旅行に行った  
 休眠・・・該当の3年間は海外旅行に行っていないが、それ以前には海外旅行に行ったことがある  
 未経験・・・今までに海外旅行に行ったことがない



## ■アクティブ度パターン別の性・年代構成比

(2004年～2006年の3カ年と2007年～2009年の3カ年を比較、全体)

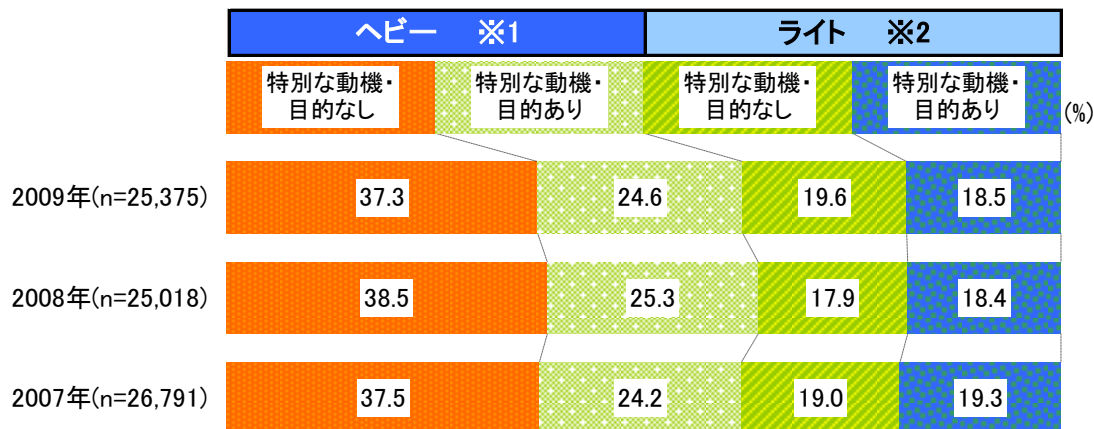
	男性20代	男性30代	男性40代	男性50代	男性60代	女性20代	女性30代	女性40代	女性50代	女性60代	(%)	
ヘビー→ヘビー (n=5423)	3.7	7.8	7.2	9.9	13.6	5.4	9.2	8.2	12.6	22.3		
ライト→ヘビー (n=2418)	7.7	7.6	4.9	6.6	12.4	③ 13.1	9.4	6.3	13.9	18.3	③	
休眠→ヘビー (n=387)	7.0	6.8	7.0	9.3	15.5	8.5	9.4	7.2	14.4	15.0		
未経験→ヘビー (n=374)	21.1		11.2	2.7	7.3	8.8	26.1		5.4	3.5	7.8	6.1
ヘビー→ライト (n=2824)	3.5	8.3	7.1	8.5	12.4	6.7	④ 14.8	8.5	10.5	19.7	④	
ライト→ライト (n=7886)	7.1	9.3	6.3	7.8	10.5	12.2	12.0	7.4	12.0	15.4		
休眠→ライト (n=4848)	6.7	10.6	7.7	8.5	10.7	8.5	11.0	9.7	14.7	11.9		
未経験→ライト (n=3655)	② 22.9		13.2	4.3	5.4	7.5	② 22.5		7.0	3.4	6.9	7.0
ヘビー→休眠 (n=716)	2.7	10.7	8.6	9.5	10.3	8.0	16.8	7.3	9.9	16.1		
ライト→休眠 (n=9588)	9.0	12.9	8.1	8.8	9.5	9.8	⑤ 15.2	7.3	8.7	10.8		
休眠→休眠 (n=30673)	3.7	10.1	14.3	14.4	10.5	2.9	11.7	14.6	10.8	7.0		
未経験→未経験 (n=26306)	15.7	13.5	8.4	8.6	8.0	11.7	8.5	7.1	9.3	9.1		

## ■レジャー渡航の内訳(男女20～60代・レジャー渡航のみ・回数ベース・推計)

- レジャーをさらに「頻度の高低×旅行のいきさつ」で4分類すると毎年ほぼ一定のシェアであった。
- ・2007年から2009年のヘビー・ライト×特別な動機・目的の有・無の4分類のシェア(①)は、景気動向などにかかわらず、毎年ほぼ一定割合であった。
  - ・「特別な動機・目的」でライトではヘビーに比べ「新婚旅行または海外挙式」のシェアが高く(②)、ヘビーではライトに比べ「現地の家族・親族・友人・知人・恋人などを訪問」が高い(③)。

## ■レジャー渡航の内訳 ①

(海外旅行経験者/回数ベース・推計)



※1:ヘビー:その年以前の3年間に毎年海外旅行に行っている

※2:ライト:その年は海外旅行に行ったが、ヘビーユーザーの定義にはあてはまらない

※各年とも、回答者のレジャー渡航最大5回分(各年の最初の5回分)までの回答から算出

## ■レジャー渡航の詳細内訳

(海外旅行経験者/回数ベース・推計)

ヘビー	特別な動機・目的なし	特別な動機・目的あり ③											(% )
		業務関連行事(社員旅行など)	会社の福利厚生	学校行事(修学旅行、ゼミ旅行など)	卒業旅行(学校行事以外)	留学・語学研修・ワーキングホリデーなど	新婚旅行または海外挙式(自分、他人問わず)	結婚以外の家族や知人のお祝い事	現地の家族・親族・友人・知人・恋人などを訪問	思い出やゆかりのある地への訪問	海外でどうしてもやってみたくてあった	無料の航空券、旅行券、懸賞当選など	
2009年	60.3	2.5	0.6	0.4	0.8	1.7	1.6	1.2	12.0	4.1	5.2	4.7	4.9
2008年	60.3	3.1	0.4	0.3	0.7	1.7	1.8	1.2	12.8	3.6	4.8	4.1	5.2
2007年	60.7	3.3	0.3	0.4	0.7	1.4	2.0	1.2	12.5	3.7	5.2	3.3	5.1

ライト	特別な動機・目的なし	② 特別な動機・目的あり											(% )
		業務関連行事(社員旅行など)	会社の福利厚生	学校行事(修学旅行、ゼミ旅行など)	卒業旅行(学校行事以外)	留学・語学研修・ワーキングホリデーなど	新婚旅行または海外挙式(自分、他人問わず)	結婚以外の家族や知人のお祝い事	現地の家族・親族・友人・知人・恋人などを訪問	思い出やゆかりのある地への訪問	海外でどうしてもやってみたくてあった	無料の航空券、旅行券、懸賞当選など	
2009年	51.5	4.5	0.6	1.4	2.9	1.8	7.4	3.2	9.6	2.8	4.2	3.0	7.2
2008年	49.3	6.2	0.7	1.5	2.7	2.7	9.0	2.7	9.3	2.7	4.2	2.7	6.5
2007年	49.6	7.3	0.7	1.7	2.4	2.5	8.3	2.6	9.6	2.6	3.9	2.1	6.7

※1:ヘビー:その年以前の3年間に毎年海外旅行に行っている

※2:ライト:その年は海外旅行に行ったが、ヘビーユーザーの定義にはあてはまらない

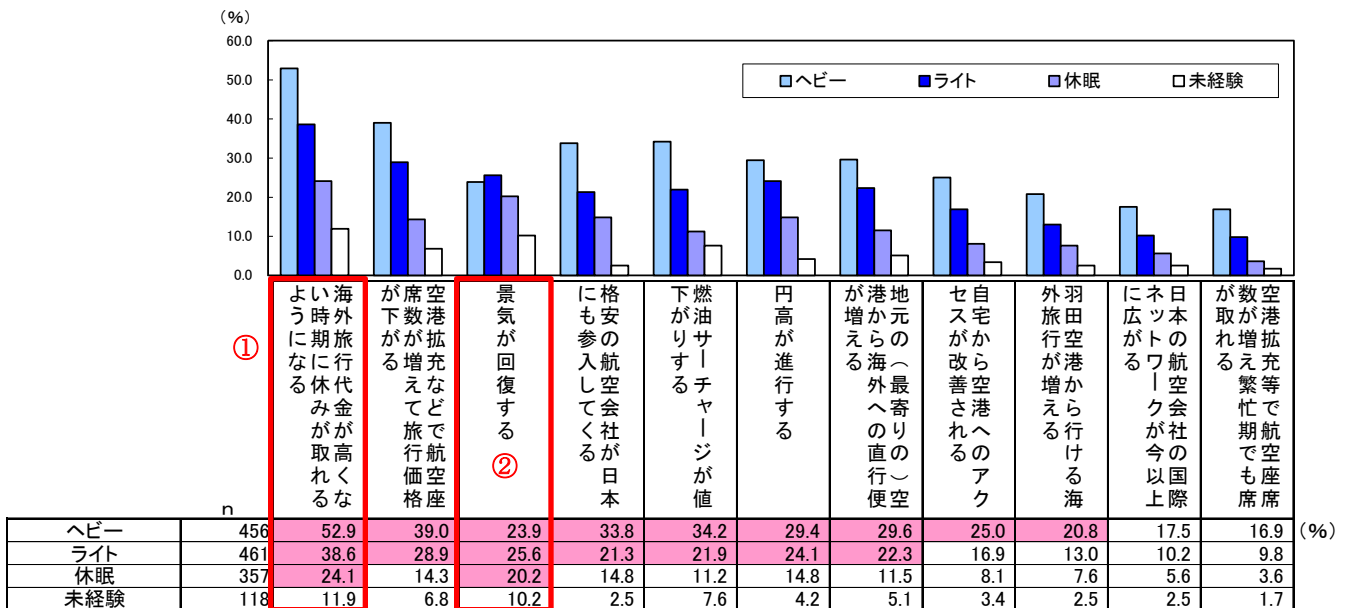
※各年とも、回答者のレジャー渡航最大5回分(各年の最初の5回分)までの回答から算出



■いずれの施策や情勢の変化も、他層と比べ、ヘビーで海外旅行回数への反応が高い。  
 ■ライト・休眠・未経験者にも比較的有効と思われるのは、「高くない時期に休みが取れること(①)」「景気が回復すること(②)」など。  
 ・ヘビーでは38%が1か月前かそれを切って休みが決まっても、海外旅行の計画を検討するが(③)、ライト、休眠、未経験者では、70%以上が2か月より以前に休みが決まらないうと海外旅行を検討しない(④)と回答。休みが取れることに加え、早く休みが確定することで、旅行需要を刺激することができる構造にあると考えられる。

## ■ アクティブ度別の社会情勢、政策による海外旅行意向の変化

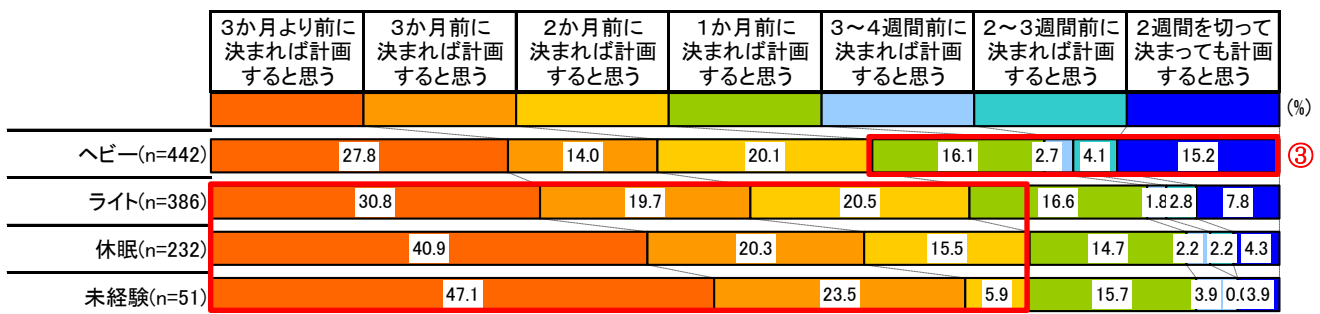
(STEP2全体/それぞれの項目ごとに単一回答「今よりも確実に海外旅行に行く回数が増える」の割合)



※20%を超えるセルにピンク色の網掛け  
 ※ヘビー・・・該当の3年間に毎年海外旅行に行った  
 ライト・・・該当の3年間に毎年ではないが海外旅行に行った  
 休眠・・・該当の3年間は海外旅行に行っていないが、それ以前には海外旅行に行ったことがある  
 未経験・・・今までに海外旅行に行ったことがない  
 ※選択肢は「今よりも確実に海外旅行に行く回数が増える」「他の条件も整えば、今よりも海外旅行に行くかもしれない」「変わらない」の3つ

## ■ どのくらい前に休暇が決まれば、海外旅行を計画するか？

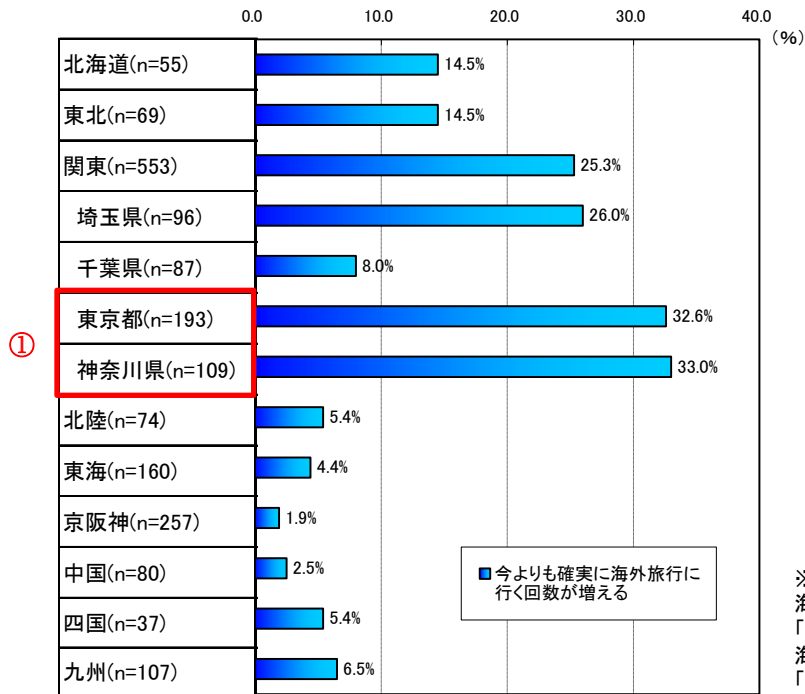
(STEP2・「自分では計画しない・当分海外旅行には行かないと思う」を除く/単一回答)



- 羽田空港国際化は首都圏、特に京浜方面(①)で需要喚起につながりそう。「今よりも確実に海外旅行回数を増やす」が東京都・神奈川県では30%以上。
- 「地元の(最寄りの)空港から海外への直行便が増える」は出国ハブ空港(成田・関空など)から比較的遠い北海道、中四国・九州で高い(②③)が、近年空港がオープンした静岡や茨城を含む首都圏から近いエリア(④⑤)では相対的には高くない。

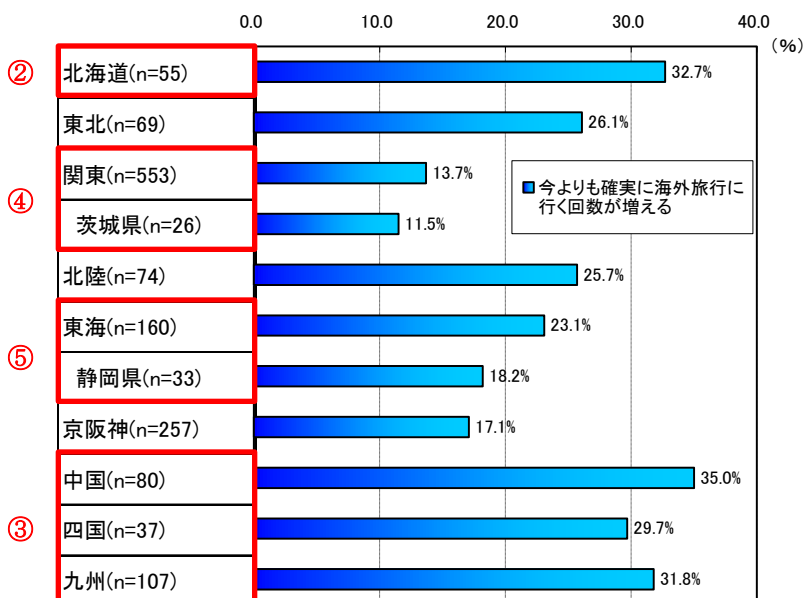
### ■ 居住エリア別・羽田空港から行ける海外旅行が増えた場合の海外旅行意向の変化

(STEP2全体／単一回答 「今よりも確実に海外旅行に行く回数が増える」の割合)



### ■ 居住エリア別・地元の(最寄りの)空港から海外への直行便が増えた場合の海外旅行意向の変化

(STEP2全体／単一回答 「今よりも確実に海外旅行に行く回数が増える」の割合)



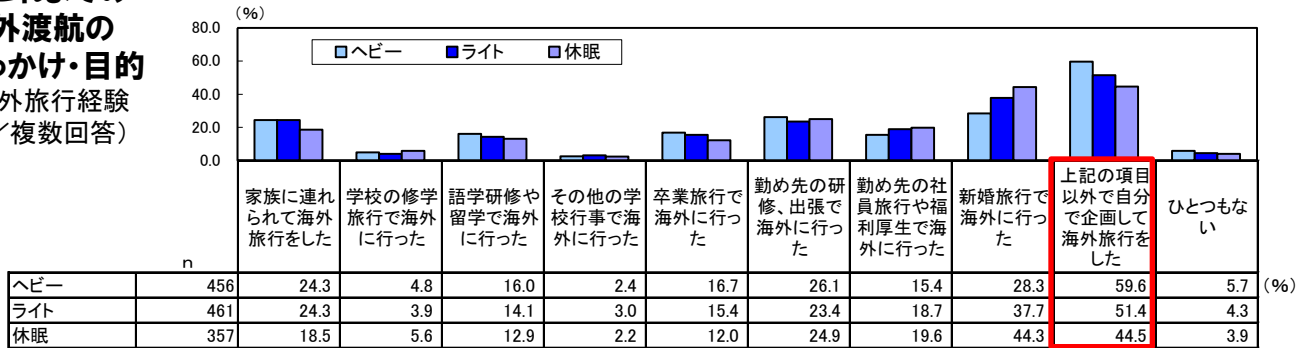
## ■これまでの海外渡航経験・初めての海外渡航

- ・ライト、休眠は「自分で企画して海外旅行した」の経験率がヘビーに比べて相対的に低く(①)、初めての海外旅行が「新婚旅行」だった比率が高めである(②)。

## ■海外旅行(レジャー目的)や休日についてあてはまること

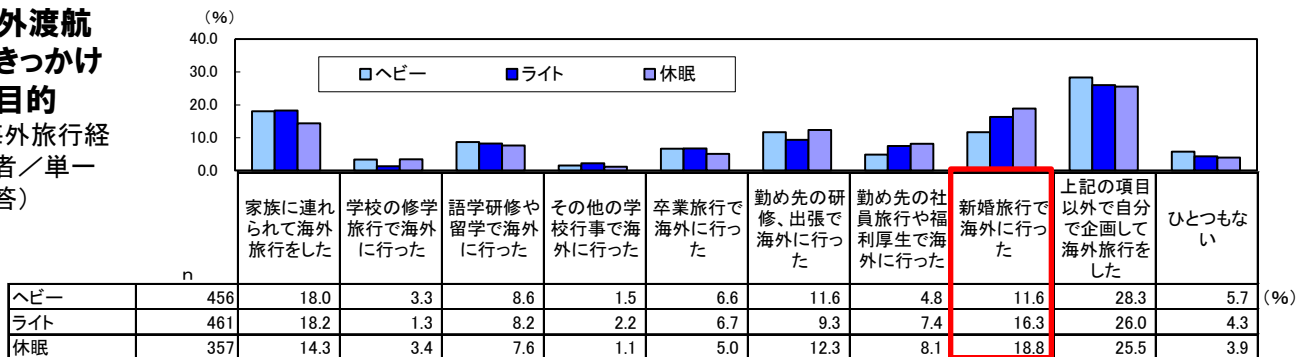
- ・未経験者はいずれの項目でも他のセグメントと差が大きい、「海外旅行は人が休む時をはずす(③)」「家族、友人がよく海外旅行に行っている(④)」では、ライト、休眠とヘビーとの差も大きい。
- ・「旅行先で感動した体験(⑤)」があることと、海外旅行が高くない時期に休める“物理的状況”と、海外の“身近さ”などを併せ持った結果、ヘビー化すると考えられそうだ。

### ■これまでの海外渡航のきっかけ・目的 (海外旅行経験者／複数回答)



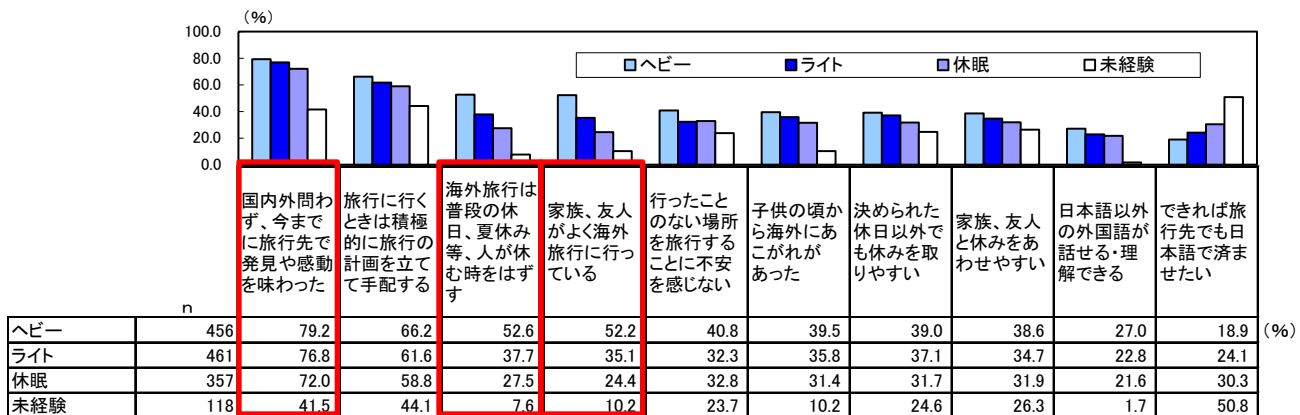
①

### ■初めての海外渡航のきっかけや目的 (海外旅行経験者／単一回答)



②

### ■海外旅行(レジャー目的)や休日についてあてはまること (STEP2全体／複数回答)



⑤

③

④